

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	善心会		
事業所名	グループホーム りんどう (葵)		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555-1		
自己評価作成日	令和6年10月8日	評価結果市町村受理日	令和7年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&J1jyosvoCd=2192500029-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和6年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「夢・感動 笑空間 小さな夢の実現も大きな感動へ つなげよう笑顔で安心できる空間作りを目指します」を理念としてご利用者、ご家族、ご友人、地域の方、職員と交流を大切に、笑顔になって頂けるように日々の生活の中で、お互い出来る事を協力し合い持っている力を発揮して頂けるように支援に努めています。施設近辺への散歩に出掛けたり、移動販売車での買い物を楽しまれたり、駄菓子屋では、昔懐かしいお菓子を選んで購入する事にも取り組んでいます。ご本人の持っている能力を発揮して頂く場面を作っています。地域交流の場としてつなぐカフェやローズカフェに参加して気分転換や地域の方とのコミュニケーションを目的として参加しております。社会福祉の貢献にも取り組み好評を頂いています。明るく優しい職員と共に笑顔で過ごして頂ける地域密着型施設として地域との関係性を途切れさせない関係性を作って行こうと取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笑顔で楽しく安心して生活できるよう、利用者のやりたい事やできる事で希望に添うよう支援している。コロナ禍から地域活動へは職員が参加し、認知症予防事業にも協力している。住民との交流は限定しているが、認知症カフェ参加者と焼き芋、地区ラジオ体操、毎月の移動販売車の買い物、障害者施設との駄菓子イベント、町の祭や文化祭の見学に行く等で触れあいをしている。スイカ割り、おはぎ作り、クリスマス会や餅つき等の季節のイベントやレクリエーションを楽しめるように工夫している。法人主催だが介護人材育成に特化した外部講師による年間研修を実施しスキルアップできる環境にしている。併設する施設とも常時連携し安心し穏やかな生活ができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様のサービス提供の基本理念を共有し、利用者様ひとりひとりに合わせたケアと寄り添ったケアに努めている。	法人の理念を基にユニット毎に目標を決めている。理念と目標をリビングに掲示して、意識づけて実践できるようにしている。個別ケアの確立を理念としているが、分かりやすく見直したらどうかの意見があり検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域で行われるラジオ体操、地域の子供会から施設訪問がありました。神戸町のNPO法人(障害)と連携し施設で駄菓子屋イベントを開催しています。	子供会が窓ふきのボランティアや雑巾やチラシで作ったゴミ箱の寄付がある。町主催の秋祭りや火祭り、文化祭に利用者の作品を出展し見学に行っている。町主催の認知症カフェの手伝い、地域の総会、防災訓練、公民館掃除に職員が参加している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症の理解から認知症の人を理解し、認知症当事者ひとりひとりにあった対応を、法人・地域の認知症カフェ、認知症サポーター養成講座などで伝えている。	隔月で併設する施設と合同で開催し、事業所の現状、行事報告や事故報告等をしている。職員と利用者には拡大したコロナ感染の実情から、面会の頻度、外出や外泊についての意見があり、次回から緩和する予定にしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	安八郡広域連合、地域包括、福祉課等と連携を密にして連携をとっている。認知症地域支援推進員会議や認知症初期集中支援チーム員として、市町村と協力し合っている。	電話やメールで連絡しあう事も多いが、書類提出時や個別の相談時は、町に出向き担当者に実情を伝えている。認知症予防事業の会議や研修に参加し、在宅の軽度認知症者への訪問、認知症カフェの手伝い、認知症サポーター養成講座に職員が協力している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の活動範囲を把握し、拘束は行っていない。又その都度グループで話し合いを行い、十分に注意し業務を行っている。	身体拘束廃止に関する指針を定め、委員会を3ヶ月毎に開催し職員に周知し研修もしている。チェックリストで個々に振り返り、スピーチロック等についてユニット毎で話し合い、拘束しないケアに努めている。帰宅願望のある人に自宅近くまでドライブに行っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていない。入浴日や更衣時には、必ずボディチェックを行い、早期発見に努めている。職員同士言葉がけには、注意を行っている。虐待防止研修を定期的に行っている。	虐待防止のための指針を定め、虐待防止検討委員会を3ヶ月に1回開催し、不適切ケアがないか話し合いをしている。虐待や暴力が懸念される原因不明の骨折事故があり、事実の明確化と安心・安全につながるカメラの設置を検討している。	

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度活用に繋げる支援体制は、出来ている。施設内での動画研修で学んでいる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。利用中においても不安や疑問に答えられる環境ができています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族やご利用者の参加をしてもらい、意見等を頂いている。ご意見箱を設置し、意見を頂きやすい環境にある。外部評価結果は、エレベータホールに設置し、閲覧して頂けるようにしている。	面会は月3回のウェブ予約で玄関先としている。面会時は利用者の日頃の様子を伝えて、家族の意向や希望を言いやすい雰囲気になっている。必要に応じて電話で意見を聞いている。法人全体で季節毎に便りを作り、家族に郵送している。利用者は介護相談員に話を聞いてもらう事が出来る。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会や全体会で、意見を聴取し年2回人事考課制度を利用して個別面談を行い、意見交換や、職員の向上心に繋げている。	毎月のミーティングや年2回の個別面談で意見を聞いている。管理者や法人事務所に意見が言える関係ができています。食洗機、衣類乾燥機の不具合は早急に修理している。職員意見でレクリエーション材料やおやつ購入等は活動費として使用している。ベッドオプションセンサーの導入も検討中である。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年2回の人事考課を最大限に活用できるように業務の中で忌憚のない意見交換を行い、サービス向上に努めている。	介護記録等をペーパーレスとしICT化し業務の効率化に努めている。ワークライフバランス推進企業として登録し、有給休暇の取得や残業時間の削減、法人内の異動希望等に取り組み働きやすい職場にしている。インフルエンザ予防接種の一部補助、衣装代の支給、永年勤続表彰等がある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員をはじめ業務に行き詰った職員に対し、研修委員を中心に個々にあった指導を行っている。資格取得時には法人の貸付制度の利用もできる。	法人内で経験に応じた研修制度や介護人材育成に特化した外部講師による年間研修がある。職員の経験や能力に合わせて外部研修への奨励をし、受講費用を事業所が負担している。個人資格取得の為に研修には勤務への配慮をしている。ケアマネジャーや介護福祉士には資格手当を支給している。	

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	安八郡介護サービス連絡会や岐阜県老施協などの研修会や地域の会議で他施設との交流を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意向に配慮しながら必要なサービス提供を職員間で話し合い、多職種との意見交換を行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの希望に添えるよう、ご家族から情報を得たり、日常生活から把握に努め職員同士、実現に向けて支援している。	居室にいる時、入浴や着替えの時など日々の会話の中から希望を聞いている。言葉にできない人には筆談で聞いている。家族の声を聞きたい人には、電話をかけたたり面会を依頼している。起床・就寝時間は利用者の意向に合わせ柔軟に対応している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループ会等の会議で、意見交換し介護計画に繋げている。ご利用者の気持ちを大切に、個別支援に努めている。	本人や家族の希望を聞き医師や看護師の意見も参考に介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングし、担当者会議で検討し更新している。毎月のミーティングで状態を話し合い、日課計画表も参考にして必要時は見直している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りノートや日誌を活用し、多職種が連携して実践や計画に活かしている。	介護日誌、介護・看護日誌に利用者の行動や言葉を含めた様子、申し送り事項もIPADに入力し情報を共有している。気になる箇所は印刷し介護計画に活かしている。緊急の伝達事項等はホワイトボードや申し送りノートも活用し職員に周知している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時には、地域包括支援センター、民生委員などと連携してサービス提供している。併設している事業の多機能・特養の情報も交換している。	家族に必要物品を依頼しても困難な場合は通信販売を利用し購入している。病院受診に家族が付き添えない時は、職員が同行し受診している。併設する特別養護老人ホームや小規模多機能事業所に移動時は、慣れた職員が訪問している。	

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への発信を行い、地域資源を有効に利用し、地域で支えている。感染症の対策の為なかなか難しいのが現状である。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	Dr回診があり、常に看護師が健康管理を行っている。何かあればご家族への連絡等を行い適切な医療を受けて頂けるよう支援している。外部のかかりつけ医には、看護師より連絡票で情報提供している。	入居時に家族の意向で全員が協力医に変更している。眼科等の専門医への受診は家族の同行を基本とし、日頃の様子を記した連絡票を渡し、受診後に報告を受けている。協力医は24時間連絡できる体制で、指示を得て受診又は救急搬送等をしている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中はご家族や看護師から定期的に経過を聞き、早期に退院出来るように良好な関係に努めている。	入院時は介護・看護サマリーを提供し病院のケースワーカー等と連携している。家族や病院関係者から随時情報を得て、家族の意向を確認しながら話し合いをしている。医療行為もなく事業所に戻る時は、退院カンファレンスに参加しサマリーをもらっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や看取りの時期に近づいた時には、確認を行っている。終末期をどのように迎えたいかご家族とご本人の意向を伺い、希望に沿った対応をしている。又状態に応じて希望があれば特養や病院への支援もしている。	摂取量が少なくなれば医師の指示にて栄養剤の補給、食形態の変更等をしている。家族に随時状態を説明し、看取りを希望時は医師が説明している。看取り指針、同意書、意思確認書で説明し、職員には看取りケアの研修で方針を共有し対応している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態変化時には、オンコール体制ができており、看護師に指示を仰ぐことができている。必要時には看護師が施設に来て対応している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	DRT委員会が主導で訓練を年2回行っている。運営推進委員の方々に報告したり、消防隊員への報告をし地域との協働を行っている。	年1回は消防署立ち会いで夜間想定も含めて避難訓練を実施し振り返りもしている。BCPを策定し米、水、缶詰等の備蓄品はチェック表で管理している。地区の防災訓練に職員が参加し福祉避難所の指定を受けているが、訓練に住民の参加が得られていない。	夜間火災時行動チャートで明示し併設する施設の協力体制はあるが、住民に協力が得られるように様々な機会に働きかけられるよう期待したい。

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては、グループ会等で再認識し、個々の尊厳等を大切に言葉かけや対応に気をつけている。個別になるお風呂タイムや部屋での傾聴も大切にしている。	その人に合う言葉遣いや声かけをし、接遇研修をしている。ソワソワしている人には側で寄り添い見守りし、排泄への誘導は大声にせず人前での声かけに注意している。入浴時は移動、脱衣、洗身、着衣等1対1で対応している。夜眠れない人にはお茶を出している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望されている事項を最重要に置いている。自己決定が難しい方には様々な選択肢を用意して対応している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールを提案し自己決定をポイントにおき、利用者様に合った生活を提供している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや行事食を取り入れ、食べられないものは出来るだけ他のメニューで対応している。メニューから色々連想する会話が楽しみの一つになっている。	併設の施設から調理済み副食は提供されており、事業所でご飯を炊き、味噌汁を作っている。栄養士が希望の献立等を聞いて取り入れている。米とぎ、食器拭き、キッチンクロス洗いやケーキの上にクリームを絞ってもらう等の出来ることを一緒にしている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、見た目も大切で、多い時には小分けにしての提供もしている。体重測定も定期的に行い、体調の変化にも注意を払っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯をご自分で洗える方はご自分で行っていただいている。定期的に歯科衛生士が入り、口腔ケアを専門的に行って頂いている。必要時には、歯科往診に繋がっている。	毎食後の口腔ケアは、個々に合わせて歯ブラシ、舌ブラシ、スポンジブラシ使用し見守りや介助している。口腔清拭の人もいる。義歯は洗浄し夜間預かりにしている。歯科医の訪問診療、歯科衛生士の処置、法人の歯科衛生士の助言や指導等を受けている。	

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本的にトイレでの排泄を心掛けている。カンファレンスで情報交換を行い、排泄パターンを把握し適切な排泄支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日や時間を出来るだけ利用者様に合わせている。季節に合わせて、ゆず湯など行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様に希望によって照明や空調をかえるなど対応している。体調に合わせて休息して頂いたり、使い慣れた寝具を持ってきてもらっている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加、状態変化は、ケース記入し情報を共有し合っている。薬に関しては、説明書がいつでも確認できる。看護師が管理、指導を行っている。	薬箱にセット時は二人でチェックし、服薬時は本人の目前で名前、日付、朝昼夕を復唱し手に載せるか口に入れ、飲み込みや口腔内の残薬を確認している。空き袋はウォールポケットに入れ看護師が確認し廃棄している。薬の変更時は状態変化に注意している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で洗い物や洗濯物たたみなどお手伝い頂き、生活の中で役割を持って頂いている。移動販売が来るときは自分で選んでお菓子など購入している。	利用者のやりたい事や出来る事が楽しみとなるようにしている。箒で掃き掃除、洗濯物のハンガー掛けや畳み、キッチンクロス洗い等をしてもらっている。パズルや化粧したい人は家族に持参依頼している。移動販売や駄菓子選びも楽しみにしてもらっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気分転換や季節を感じて頂けるよう施設内周辺の散歩を行っている。	事業所周辺を散歩したり、認知症カフェに参加している。町主催の火祭り、秋祭りや文化祭の見物に出掛けている。駐車場で行うイベントや移動販売車の利用時も気分転換の機会にしている。家族の協力を得て面会時に散歩に出掛ける利用者もいる。	

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売が来た時には商品を選んで頂き購入している。支払いは職員がしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や面会の際、手紙を持ってこられ日常の中で読み返しされている。必要時には電話ができるように手伝っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬には加湿器として使える空気清浄機を購入し、温度設定や、不快の匂いにも対応し、居心地の良い空間作りをしている。壁には手作りの作品を飾っている。	リビングに利用者の作品を置いたり、壁面に季節の壁画等で飾っている。乾燥に注意し暖房や加湿に心掛け、空気清浄機を使用している。随時室温を確認し膝掛け等で対応する人もいる。常時換気し手摺りやドアノブ等を消毒し、感染症予防に努めている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所が同じところがいい利用者様と色んなところで過ごしたい利用者様それぞれに合わせている。気の合う人と話ができるように職員も一緒に会話している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物を自宅から継続して使用している方もみえる。配置等にも考慮している。ご家族の写真を飾って心地よく過ごしてみえる方もいます。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、たたんだりして頂くのに、動線に障害物が無いように注意している。環境整備に気をつけている。トイレまでに椅子を置き休憩できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	善心会		
事業所名	グループホーム りんどう (橙)		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555-1		
自己評価作成日	令和6年10月8日	評価結果市町村受理日	令和7年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvCd=2192500029-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様のサービス提供の基本理念を共有し、利用者様ひとりひとりに合わせたケアと寄り添ったケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域で行われるラジオ体操、地域の子供会から施設訪問がありました。神戸町のNPO法人(障害)と連携し施設で駄菓子屋イベントを開催しています。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症の理解から認知症の人を理解し、認知症当事者ひとりひとりにあった対応を、法人・地域の認知症カフェ、認知症サポーター養成講座などで伝えている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	安八郡広域連合、地域包括、福祉課等と連携を密にして連携をとっている。認知症地域支援推進員会議や認知症初期集中支援チーム員として、市町村と協力し合っている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の活動範囲を把握し、拘束は行っていない。又その都度グループで話し合いを行い、十分に注意し業務を行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていない。入浴日や更衣時には、必ずボディチェックを行い、早期発見に努めている。職員同士言葉がけには、注意を行っている。虐待防止研修を定期的に行っている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度活用に繋げる支援体制は、出来ている。施設内での動画研修で学んでいる。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。利用中においても不安や疑問に答えられる環境ができています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、ご家族やご利用者の参加をもらい、意見を頂いている。ご意見箱を設置し、意見を頂きやすい環境にある。外部評価結果は、エレベータホールに設置し、閲覧して頂けるようにしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会や全体会で、意見を徴収し年2回人事考課制度を利用して個別面談を行い、意見交換や、職員の向上心に繋げている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年2回の人事考課を最大限に活用できるように業務の中で忌憚のない意見交換を行い、サービス向上に努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員をはじめ業務に行き詰った職員に対し、研修委員を中心に個々にあった指導を行っている。資格取得時には法人の貸付制度の利用もできる。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	安八郡介護サービス連絡会や岐阜県老施協などの研修会や地域の会議で他施設との交流を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意向に配慮しながら必要なサービス提供を職員間で話し合い、多職種との意見交換を行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの希望に添えるよう、ご家族から情報を得たり、日常生活から把握に努め職員同士、実現に向けて支援している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループ会等の会議で、意見交換し介護計画に繋げている。ご利用者の気持ちを大切に、個別支援に努めている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りノートや日誌を活用し、多職種が連携して実践や計画に活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時には、地域包括支援センター、民生委員などと連携してサービス提供している。併設している事業の多機能・特養の情報も交換している。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への発信を行い、地域資源を有効に利用し、地域で支えている。感染症の対策の為なかなか難しいのが現状である。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	Dr回診があり、常に看護師が健康管理を行っている。何かあればご家族への連絡等を行い適切な医療を受けて頂けるよう支援している。外部のかかりつけ医には、看護師より連絡票で情報提供している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中はご家族や看護師から定期的に経過を聞き、早期に退院出来るように良好な関係に努めている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や看取りの時期に近づいた時には、確認を行っている。終末期をどのように迎えたいかご家族とご本人の意向を伺い、希望に沿った対応をしている。又状態に応じて希望があれば特養や病院への支援もしている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態変化時には、オンコール体制ができており、看護師に指示を仰ぐことができている。必要時には看護師が施設に来て対応している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	DRT委員会が主導で訓練を年2回行っている。運営推進委員の方々へ報告したり、消防隊員への報告をし地域との協働を行っている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては、グループ会等で再認識し、個々の尊厳等を大切に言葉かけや対応に気をつけている。個別になるお風呂タイムや部屋での傾聴も大切にしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望されている事項を最重要に置いている。自己決定が難しい方には様々な選択肢を用意して対応している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きなスケジュールを提案し自己決定をポイントにおき、利用者様に合った生活を提供している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや行事食を取り入れ、食べられないものは出来るだけ他のメニューで対応している。メニューから色々連想する会話が楽しみの一つになっている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取は、見た目も大切で、多い時には小分けにしての提供もしている。体重測定も定期的に行い、体調の変化にも注意を払っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯をご自分で洗える方はご自分で行っていただいている。定期的に歯科衛生士が入り、口腔ケアを専門的に頂いている。必要時には、歯科往診に繋げている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本的にトイレでの排泄を心掛けている。カンファレンスで情報交換を行い、排泄パターンを把握し適切な排泄支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日や時間を出来るだけ利用者様に合わせている。季節に合わせて、ゆず湯など行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様に希望によって照明や空調をかえるなど対応している。体調に合わせて休息して頂いたり、使い慣れた寝具を持ってきてもらっている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加、状態変化は、ケース記入し情報を共有し合っている。薬に関しては、説明書がいつでも確認できる。看護師が管理、指導を行っている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲で洗い物や洗濯物たたみなどお手伝い頂き、生活の中で役割を持って頂いている。移動販売が来るときは自分で選んでお菓子など購入している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換や季節を感じて頂けるよう施設内周辺の散歩を行っている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売が来た時には商品を選んで頂き購入している。支払いは職員がしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や面会の際、手紙を持ってこられ日常の中で読み返しされている。必要時には電話ができるように手伝っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬には加湿器として使える空気清浄機を購入し、温度設定や、不快の匂いにも対応し、居心地の良い空間作りをしている。壁には手作りの作品を飾っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所が同じところがいい利用者様と色んなところで過ごしたい利用者様それぞれに合わせている。気の合う人と話ができるように職員も一緒に会話している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物を自宅から継続して使用している方も見える。配置等にも考慮している。ご家族の写真を飾って心地よく過ごして見える方もいます。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、たたんだりして頂くのに、動線に障害物が無いように注意している。環境整備に気をつけている。トイレまでに椅子を置き休憩できるようにしている。		